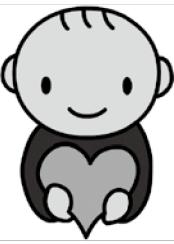


こ・こ・ら・ぼ



～ここのコラボレーション～

スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

母はつよし

～頂いた手紙の「紹介」～

自分の子どもが発達障がいかもしれない…発達検査を受け、診断を待つ1ヶ月間がとても長かったことを思い出します。その間に、「このこと」を親しい人に打ち明けたら「親の愛情が足りないだけ」と一言。今でも忘れられません。発達障がいのこと、今では受け入れられてると思うけど、最初に告げられたときのことを思い出すと、未だに泣けてしまう私です。：：障がいがあること自体より、言われた「一言」が一緒に思い出されて泣けるといった方が正確でしようか。みんなに悲しくて悔しかったことはなかつたです。

目に見えない、一見普通の子なのに障がいがある(かもしれないことに悩んでも、そういう子を持つ親である、と受け

止める」とは、少しの時間があればできると思います。「なるほど、そうだったんだ」と納得で、されば受け入れやすいし「苦しい思いをしていたのに、気付いてあげられず無駄に怒つてしまつたこともあった。「ごめんね」と反省する部分もあると思います。だから、受け入れるまでの時間に個人差はあっても、多分受け入れることはできると思うんです。それよりも、私が言われたような「親の愛情が足りない」にはじまり、「育て方

が悪い」とか「しつけができるない(親が悪い)」とか、親を追い込む発言をされる方が傷つくり、人によってはそういう発言が嫌で、障がいを受け入れるにも必要以上に時間がかかるんじゃないかと思います。家族にすら理解してもらえないけれど、自分を追い込んでどんどん苦しくなるし、子どもにも優しくできないかもしれません。

私は自身、診断がつくまでは、実母からけつこう責められていました。「親がきちんと叱らないから、年齢の割に大人の言つたたくさんおしゃべりできるのに、言葉が遅い」とか。成長に

は個人差があると、自分に言い聞かせながらも、ちょっと集団から浮いていることや行動のパターン化などが気になっていたので、こつそり発達障がいのことを調べていました。ですが実際に診断を受けたことで、今後どう関わればいいのか道筋が見えだし、たくさんの方や行政の支援を受けられるし、子どもにとつていい環境が整ってきたので、よくわからなくてモヤモヤしていたときよりも心は軽いし安定しています。

計画的な対応をしていくこ

とで、ぐんぐん伸びている我が家を目の当たりにし、ゆっくりでもちゃんと成長はしていくって身を持って感じていますし、幸い我が家は私だけが奮闘しているわけではなく、夫はもちろん診断を受けた今では両方の祖父母も理解を示し、誰よりも強い味方として協力してくれる所以恵まれていると

思います。サポートしてくださるたくさんの専門家に見守つていただけますしね。

身近に「もしかしたら、うちの子…」と思つていてる方がいて、「気になるならとにかく相談してみた方がいいよ。違つたら

違つたで安心できるし、そうだつたらそうだったで見えない不安からは解放されるよ。どうしたらいいかわかれれば、やること盛りだくさんで忙しくも調べていました。

ですが実際に早期発見となつたらなたで、周りへの協力を頼や関わり方、療育等々、忙しいですもんね。「診断名ついでも、可愛さに変わりはないよ」って付け加えると「そうだよね」と、相談する決心ができたと言つていました。

今回、あるお母さんから頂いた手紙を紹介させていただきました(「本人・ご家族了承済」)。これまで何度も分けて書いてきた「早期発見・早期対応」「障がいの受け入れ」「受容のプロセス」について、実際に体験している方だからこそ、気持ちの流れがたくさんつづつあります。おさら多くの方が「見える」「触れる」ことが大切なので

中央公民館

講座案内



和菓子作り教室

と き 7月12日(金)

13時～15時

定 員 20名

材料費 500円

対象者 町内在住の方および在勤者

※7月1日(月)8時30分より中央公民館窓口または電話で申込込んでください。

定員になり次第締め切ります。

【申し込み・問い合わせ】

中央公民館

☎ 45-8446